

中長期の成長戦略と資源配分 MTP2026の進捗

事業環境の変化

NSKは、中期経営計画2026(MTP2026)をFY2022にスタートしました。FY2022の事業環境としては、半導体不足を背景にグローバル自動車生産台数の回復に遅れが生じ、中国経済の成長も鈍化しました。加えて、米国と中国の対立(自国主義)の進展や、材料・エネルギーといったインフレの拡大、また、各国における金融引き締め政策の強まりを受けて景気減速懸念が高まるなど事業環境は大きく変化しました。産業機械事業では増収と収益改善が進みましたが、期後半から需要は調整局面に入り、自動車事業は自動車生産台数の回復遅れの影響を受けました。

こうした事業環境の変化に対し、MTP2026の前提を見直しますが、当初設定した経営目標の達成にこだわった運営を継続し企業価値の向上を目指していきます。

経営目標

		MTP2026目標	FY2022実績
成長性	売上高/成長率(CAGR)為替影響除く	+5%	+0%
収益性	営業利益率*	10%	3.5%(5.6%)
	産業機械	13%	9.2%
	自動車**	6%(7%)	-0.8%(1.8%)
効率性	ROE	10%	3.0%
	ROIC	8%	2.1%
安定性	ネットD/Eレシオ	0.4倍以下	0.29倍
株主還元	総還元性向	50%程度	83.6%

* ステアリング事業を除く数値を()内に表示しています。

非財務目標

ESG経営	環境	「つくる」事業活動のCO ₂ 排出削減(Scope1+2 FY2017比) FY2022実績 -43.6% 削減(FY2026目標-50%) 「つかう」商品によるCO ₂ 排出量削減貢献 FY2022実績 2,288 千t(FY2026目標 3,000千t)
	社会	人権方針を2022年10月に開示
	ガバナンス	買収防衛策を廃止
経営資源の強化	デジタル技術の活用	・DX人材育成プログラムをスタート(受講者数目標5,000名に対し50%以上の進捗) ・基幹システムの刷新を推進
	生産の超安定化	・生産性1.5倍を目指した活動を推進中 FY2026目標に対しFY2022実績 12%の進捗
	多様な人材の活用	・多様性比率 FY2026目標15%に対しFY2022実績13%・東京工業大学とトライボロジー技術に関する連携を強化

ROE10%達成と企業価値向上に こだわった運営の継続

① 収益を伴う成長

軸受と精機製品で営業利益率 10%以上の事業基盤の再構築

- インフレコストの売価反映方針の徹底
- E&E市場、自動車生産台数の中期前提の下方修正に対し、資産効率アップと収益性改善を推進
 - ・超安定化生産によるアウトプットの向上
 - ・生産再編による生産性の向上
- ポートフォリオ変革の推進徹底
事業/顧客/商品
 - ・産業機械事業の比率50%へ
 - ・EV市場の新規顧客の開拓と拡販
 - ・ステアリング事業は新会社の下、経営の独立と新たなパートナーシップ戦略を推進

② 安定的な利益還元の継続

- 配当性向 30~50%を目安
- 総還元性向 50%程度
- 自己株式取得 機動的に実施